

大学版画研究会

会報

6

1980.6

この会報は、大学版画研究会の活動の記録として、また、版画の普及と発展のために、会員相互の交流を図ることを目的として発行される。

本会報は、毎月発行される。内容は、研究会の活動の記録、会員の手紙、作品の紹介、版画の普及と発展のための活動の紹介などである。

本会報の発行は、研究会の活動の記録として、また、版画の普及と発展のために、会員相互の交流を図ることを目的として発行される。

本会報の発行は、研究会の活動の記録として、また、版画の普及と発展のために、会員相互の交流を図ることを目的として発行される。

本会報の発行は、研究会の活動の記録として、また、版画の普及と発展のために、会員相互の交流を図ることを目的として発行される。

本会報の発行は、研究会の活動の記録として、また、版画の普及と発展のために、会員相互の交流を図ることを目的として発行される。

本会報の発行は、研究会の活動の記録として、また、版画の普及と発展のために、会員相互の交流を図ることを目的として発行される。

本会報の発行は、研究会の活動の記録として、また、版画の普及と発展のために、会員相互の交流を図ることを目的として発行される。

本会報の発行は、研究会の活動の記録として、また、版画の普及と発展のために、会員相互の交流を図ることを目的として発行される。

本会報の発行は、研究会の活動の記録として、また、版画の普及と発展のために、会員相互の交流を図ることを目的として発行される。

本会報の発行は、研究会の活動の記録として、また、版画の普及と発展のために、会員相互の交流を図ることを目的として発行される。

本会報の発行は、研究会の活動の記録として、また、版画の普及と発展のために、会員相互の交流を図ることを目的として発行される。

本会報の発行は、研究会の活動の記録として、また、版画の普及と発展のために、会員相互の交流を図ることを目的として発行される。

本会報の発行は、研究会の活動の記録として、また、版画の普及と発展のために、会員相互の交流を図ることを目的として発行される。

本会報の発行は、研究会の活動の記録として、また、版画の普及と発展のために、会員相互の交流を図ることを目的として発行される。

本会報の発行は、研究会の活動の記録として、また、版画の普及と発展のために、会員相互の交流を図ることを目的として発行される。

本会報の発行は、研究会の活動の記録として、また、版画の普及と発展のために、会員相互の交流を図ることを目的として発行される。

第1回創作版画協会展は、東京三越・大阪三越で行なわれた。1919年（大正8年）のことである。協会事務所は戸張孤雁方であった。

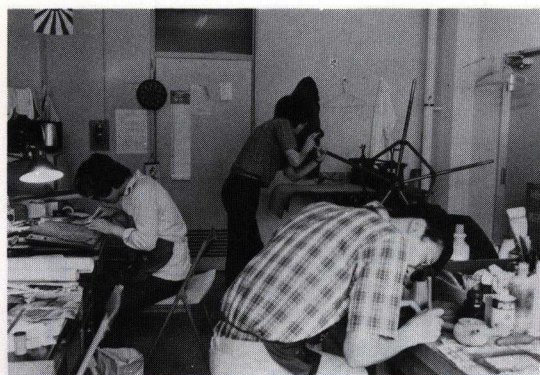
— 緒言 — 山本 鼎

理論上、油絵に対する木炭画などと同じ意味に、版画が美術上の創作として独立し得る事をもはや疑う人はあるまい。われわれは成績の上に是を確定せねばならぬ。創作を重ねて実質を進め、展覧会や説話を以って世に理解を奨める事がわれわれの任務である。やがて、版画家の簇出を促し公私の美術機関に版画の領土を獲得し、以って版画の黄金時代を現わす事がわれわれの理想である。

ひそかに、僕の期する処は固有の木版を擬古的でなく活かす事である。日本の人文的地位を世界に顕耀した事に於て最も重い日本の美術を代表する浮世絵と称する木版版画の成蹟を回顧して、その伝統ある技術を新しい生命に冴えかへらす事である。三つの希望を期成する決議。

- ① 版画の製作に関する本（銅版画、石版画、木版の三科を各一冊ずつにした）を発行すること。
- ② 文展に版画を木炭画等と同じ意義で受理せしむる事。
- ③ 東京美術学校に、銅・木・石の三つを含む「版画科」を新設せしむる事。

この創作版画協会第1回展、山本鼎の、「緒言」を読む時60年の才月の中で「大学版画研究会」の歴史的な重要さと意義を感じるのです。



岩手大学教育学部特美科

前川 直

当科は教員養成のための学部の中にある美術科としては、少しく特異なカリキュラムを組んでいる。

全国立大学の教育系美術の中で七大学に設置されている特別強化教員養成課程、〈特設美術科〉の一つである。

学生の履修状況は、一般教養課程を終了し学部移籍可能の時期を平均的に二年次前期終了時として、二年次の後期から、専門実技コースとして、油彩、版画、彫塑、工業デザイン、グラフィックデザイン、金属工芸、窯芸、染織、美学・美術史といった分野を設け、ガイダンスを行ない、学生の志望に応じて、それぞれの専門コースに所属し、卒業まで選択したコースを専修できるシステムをとっている。

版画専修コースを志望する学生は（一学年定員30名）の内、一学年約2名が、この数年間の状況である。設備面は、面積、用具等、決して充分とはいえず、かなりの悪い条件ではあるが、エッチング、リトグラフ、シルクスクリーン、木版が一応制作できるようになっている。

他の大学との比較は、その条件の設定によって困難であるが、比較的、自由で充実した制作、研究がなされているといえよう。



玉川大学

広畑正剛

芸術学科が設置されて16年目である。

芸術の基礎理論の研究と基本的技術の錬磨によって、学問と実践の両面から芸術にアプローチし、深く思考するとともにすぐれた創造力を蓄えた芸術家、芸術教育者を養成することが目標である。

芸術活動、芸術現象の基礎的な理解のために、それぞれの芸術の理論や歴史に関する多くの講義や演習が開講され、さらに、専門的な技術習得のための多様な実技科目が置かれ両者が一体となって体得できるようカリキュラムが組まれている。

美術専攻の中に油絵、日本画、彫刻、デザイン、陶芸、金工、染色織物の7課程があり、版画独自の課程はない。

版画関係は美術専攻生1年全員が、構成、の授業の中でシルクスクリーン（原紙切抜き）を実習する。また、基礎絵画の中で木版画を実習する。（工芸関係の学生を対象）

デザイン課程2年において再びシルクスクリーンをやり、版種は自由選択である。その後も興味ある学生は制作の上でシルクスクリーンを活用することが多い。染色課程の学生もブロックプリントやシルクスクリーンを用いた制作を数多くする。

版画独自の課程と実習室がないために設備らしいものは、エッチングプレス機とオフセット手刷り校正機があるだけで、授業の中でも孔版が主となっている。

近い将来に、版画実習室と機械設備がぜひほしいものである。



九州産業大学芸術学部

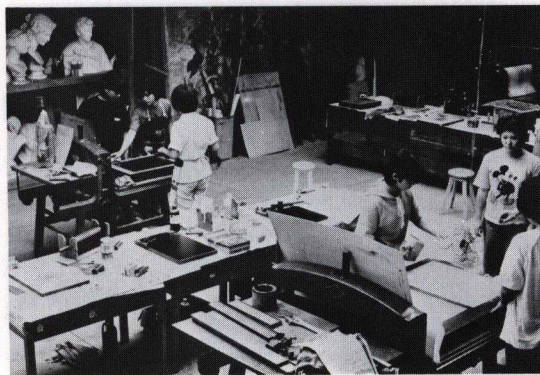
酒井忠臣

本学部は、昭和41年に発足し、美術学科・デザイン学科・写真学科に別れ、学生数は、約1,700名。それぞれの学科の特殊性による授業内容でカリキュラムが組まれている。美術学科では、油彩の実技の一環として、石版画・銅版画を実習する。デザイン学科は印刷実習として、シルクスクリーン、オフセット、凸版、活版。写真学科は写真製版実習として行なう。

アーティストとしての版画の授業は、美術学科の絵画コースで、3年生の学生約80名が、石版画、銅版画を週1回履修する。4年生は、卒業制作として数名の学生が、大学院生は集中講義で受講している。ほかに、自主ゼミで本学版画研究会の学生20名、研究生2名が、毎日制作している。

設備は、版画実習室約165m²。リトプレス機6台、エッチングプレス機3台。ジंक版研磨室がある。

大学図書館に408m²のアートギャラリーがあり、油絵、素描、版画、彫刻などを展示。特に、ルオー、ザッキン、メクゼパー、ハウズナー、ジャコメッティ、浜口陽三、駒井哲郎、浜田知明など、国内外の作家約60名の版画130点が収蔵され、版画の指導に役だっている。



福岡教育大学

宮下登喜雄

新幹線の終着駅博多と北九州市の中程、鹿児島本線の赤間駅からバスで5分程のところに福岡教育大は位置している。峨々たる山を背に南斜面の敷地に教棟が十棟内外、東西に広がっている。

美術科教棟は一番東の鉄筋二階建ての校舎で、他に陶芸、木彫、铸造等の実習教棟が周囲に散在している。

自然に恵まれた環境は良いのだが反面、材料器具購入などには不便である。

本学は名称の示す通り、小中学校教師養成のための国立大であり、従って美術科も小学課程と中学課程に分れている。版画は3年生が受講している。

エッチングプレス大型1台、リトプレス2台、オフセット校正機2台等が一階の版画研究室に設置されている。この研究室は卒業制作に版画を選択した学生が常時使用している。その他聴講生、研究生が現在3名在籍している。

この種の大学の多くがそうであるように、本学も夏期に2回集中講義により単位修得する。中学課程学生は2週間、小学課程は1週間で中学は必修、小学は選択である。

集中講義、しかも夏休み中にしか時間がとれないことについての問題は別としても暑いなかでの授業は教師、学生双方にとって楽ではない。

私が版画を担当して今年で7年になるが、受講生のなかから日本版画協会準会員が3名出たことは嬉しいことである。

しかし何とんでも集中講義だけの修得では充分とは行かず、卒制に版画を選んだ学生は不自由な思いをしていることも多い。とはいえ本学は版画に対して大変積極的であり、集中講義ながら3週間も期間をとっていることはあまり例がないのではない。

深沢幸雄

私の技法などという特殊なものは何もないのです。それで閉口しています。僕には十年位前に書いた「銅版画のテクニック」という技法書があり、これが全く思いがけず今もかなり読まれていて、つい最近また第9版が出るところです。考えてみると僕自身が技法書なしの独学だったし、僕が銅版画を始めたころはいまだ日本の銅版画そのものが初期の技術探求時代でした。グループ展などがあっても画の内容はそっちのけで、この効果はどうして出るのか？出したのかと質問し合う場所のようでありました。コッケイなようではありますが、それはそれなりに若々しい熱っポイ時期だったかと思います。「銅版画のテクニック」もだからそのころの雰囲気を与えているように思われます。そして現在僕が使っている技術などというのは全くオーソドックスな、エッチング、アクワチント、メゾチント、ソフト・グランド位の組み合わせにすぎません。

十余年前メキシコで技術を教えました。何しろゴヤ風の伝統が厳然たる国ですから、僕の妙チキリンなテクニックは大変彼等を驚かしました。そしてその後も随分と文通は頻繁でした。数年後私がまた訪れた時も先づ一番最初に飛んできたのはG市の美術学部長で、先年教えた時、最も熱心な受講生だった男です。彼は眼をキラキラ光らせて聞きました。あれから何か新しいテクニックの発見があったのかと？。僕は苦笑していや僕は今、自分の心の内側を堀るのに一生懸命だから、技法探しは二番目だと答えたのです。彼の光った眼がガククリと来て大きな失望が彼の内面に起ったことを僕に悟らせました。僕も心中苦笑したのです。その後彼からの文通は絶えました。新しい技法をみつけない僕はもう縁無き衆生という訳だったのかも知れません。

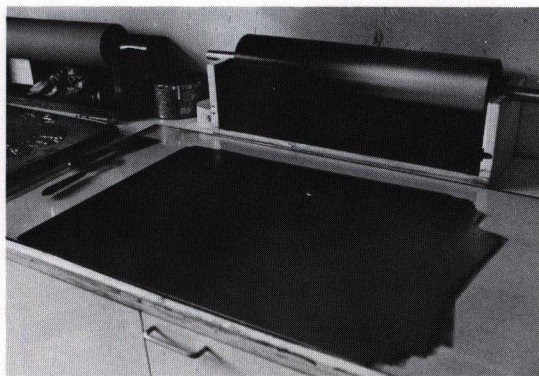
僕は一つの寓話のようになってキザかも知れませんが最後はエッチングだけで、それこそ一本の

線だけですべてが語れたらどんなに良いだろうかと考え、またそのような道を歩きたいと思っているのです。僕の画がそうならないでいるのはいまだ精神と結果が短刀直入、ズバリと結びつかないからでしょう。本当は情ないことなのかも知れません。まだ余分な着物をうんと着こんで、不恰好に着ぶくれているように思えてならないのです。

× × ×

これも大きくいえば技法ということになるでしょうか？、例えば僕はメキシコにでかける時、よし今度は画をかいてきてやるぞと固く誓い、重いスケッチブックを二、三冊トランクの底にしまいます。古風な矢立て、やコンテ鉛筆なども用意します。何も蒼古、悠遠に眠る教会でなくてもいいし、太古モンゴロイドの風貌をまだ伝えているであろう高地の原住民の肖像でなくとも良い訳です。いわばやや修蝕されたる心象スケッチで良い訳ですが、二・三冊のスケッチブックに溢れる程のデッサンというか、エスキースを夢みるのです。ところが何事でありましょうか、何が僕をして健忘症にならせるのか1点のエスキースもなく帰国して参ります。そしてスケッチブックは全面、余すところもない程、不手な詩で埋まっているのです。3年前のグアテマラの市場で作り出した詩は380行を越えました。あけても暮れてもそれに没頭し、完成したのは帰国時、ハワイ空港の機内でした。それを房総半島の静かな夜、一人アトリエで推敲する時にひょいと手が動いて、銅版画作品の第一メモが生まれるのです。でもまた8月に出掛けるメキシコの旅では今度こそ画をかいてこようと思っています。

「銅版画のテクニック」で訂正しなくてはならぬ所が出ました。グランドの成分です。松やニ2、白ロウ3、アスファルト4で作って下さい。これなら絶対失敗ありません。良いグランドが生まれます。



原 健

12年ほど前、タブロー制作に於いて、グラデーションにはスプレーガンを使用し、石版では同様な技法のスパッタリングを網とブラシで描画していました。現在では信じられないかもしれませんが、ローラーボカシと言われる方法は知らず、またそのような技法による作品に接する事もなく、ただ木版による一文字ボカシ、片ボカシには興味を持っていたようです。

それは突然どのような触発を受けたのか、練台上のインクを片付ける時に、ローラーでいたづらしたのが始まりで、製版にてグラデーションを定着するのではなく、刷りの段階で得られるローラーボカシに驚喜したのを憶えています。

私にとり一つの啓示ともいべき技法の発見であり、そのボカシは、相異なるインクその顔料自体の相互浸透であり、単なるボカシとしてでなく、暫時的移行としてのグラデイトといったコンセプトを、そのローラーボカシによる技法とともに自覚して来たようです。しかし、言ってみれば階調の事ですし、かつて石膏デッサンで苦勞させられた階調表現を、いまだ引きづっている事に気づき、色と調子で苦勞する、の詩句をも思い出させます。

しかし、この顔料自体が浸透している有様は、スプレーガンや、網スクリーン分解によるグラデーションとも異なり、セリグラフのスキージによるボカシ技法、また、木板によるボカシ技法と同質のものと思われませんが、なかなか魅力ある表現言語と自負し、平版により、あるいは孔版、また、メタルプリント（金属凸版）で制作する事に、のめりこんで行った次第です。

当初は、技術は稚拙ですし、実際にはボカシになった版はない訳ですし、モノタイプのみに限られたり、まったく同じ状態では刷れないのではないかと、とのご批判を時々受けましたが、最近では浮

世絵木版画技法である一文字ボカシ、足長ボカシ等が知れ渡り、そのような質問もなくなり、伝統木版技法の偉大さには敬服させられます。そしてアテナシボカシや、ゴマ刷りといった技法を耳にするたびに、なぜか私は恍惚としてしまうのです。

つまり、印刷機等によるテクノロジーでは不可能な、しかし、複数性を前提とした、手の技による極限の精妙な厳しき、そして、それにもかかわらず、表出してくるヒトの体温を感じるからでしょうか、版画を、転写術とみるなら、一種の極致をみる思いがしてなりません。

私の技法は一般的なリトグラフの特性とは離れていますが、最近使用している薬品、材料などを記しておきます。

エッチゴムを烏口で線引し製版に入りますが、PS版もよく使用し、マスキングフィルムのカットティングで焼付製版、フジのSGP-Kは、一般のPS版より砂目はよく、クレヨン、解墨でマットフィルムに描画したのも驚くほど感光再現します。PS版用のクリーナー（CP）、エッチ（EU-1）は、アルミ全板によく、消去液（RP-1）を使用して以来、浮石棒知らずです。そして整版ローラーと墨は使用せず、スポンジで現像インク（P1-2）を盛ります。プロパーはドイツのエゲン社ラッカーが使い易く、以上はプロパー整版のみに限ります。ローラーの最長は60cmほど、インク練り台は床より85cmあり、一般よりかなり高いと思いますが、腰部によく快調です。練板石はガラス板を使用しますが、サイズは自由ですし、下がホワイトであれば調色にも便利です。プレス機ベッドにはステンレスをはり、至近距離に加湿器をセットしています。ローラー等の清掃に、トリクロエチレンを使用しますが、油膜など完璧に除去してくれ重宝しています。

「視て描くことから視ないで創ることへ」

山野辺義雄

大学版画研究会が発足してからすでに6年が経過している。この6年において為された版画教育の研究は一応の成果をあげたと思われる。

大学における美術教育の中で版画教育をいかに位置づけ、定着させるかは中心的問題として今後とも考えていくべきではあるが、会報第5号におけるカリキュラム分科会の報告にその示唆となる事柄が多分に含まれていると思うので以下私の考えを述べてみたい。

美術が視覚芸術である以上、ものを視る事、そして視た事を具現化することが、その中心的行為であることには今も昔も変りはない。

人が幼児画から脱して、ものと自分との間に「ある距離」を置いてものを視、それを描いた時が「写し描き」の始まりとするなら、それはデッサンの始まりであると思う。このようにして始まった「描写する行為」は、「視ること」、「視たものを表現すること」、「表現したものを視ること」の行為を相互にくり返しつづ返復しながら徐々に客観的な表現力を培っていくと思われる。

視る事と描く事が高い次元で合体されることが表現の基盤であり、その対象が石膏像であれ、人物であれ、静物であれ、風景であれ、描写する行為が視覚芸術としての美術の根幹であることに変わりはない。

このようにしてものを視て描くことを中心に勉強してきた学生が美術系大学入学者の一般的な姿であると思うが、このような学生が版画を勉強する時に直面する最初の問題の一つとして次の事があげられよう。

自分の今まで勉強してきた事柄と版画とが仲々結びつかないで困惑している状態、つまり描画と版画との間にある断層をうめる方法が見つからず立ち止まっている状態を多々見かけるのである。

この断層を、単に表現方法の違いであり、段々に技法を覚えれば解決がつくと樂觀視してよいのであろうか。事実、自分自身でこの問題を解決して作品を創り続けていく学生も中にはいるが。

以下この点についてふれてみたい。

通常、版画にあっては、ものを視ないで制作する事と一般的に考えられているが、この「直接ものを視ないで創る事」は単に版画だけに限らず、壁画、油画、日本画ひいては石彫、木彫等の彫刻の分野においても行なわれている。

この「ものを視ないで創る行為」と「ものを視て描く行為」との違いとそこに存在する緒問題を探り、同時にこの両者をつなぐ「掛け橋」を見いだす事が出来れば、「デワから版画」と一本の道として教える事が可能になるのではないかと私は思うのである。

つまり版画教育の問題点から発して油画、壁画、日本画、彫刻等にその問題を押し広げていった時に美術教育全般にかかわる問題として、「視て描く事から視ないで創ることへ」という共通のテーマが浮びあがり、そこに内在している緒問題を探求することが、版画科、油画科、日本画科等に分割されている各ジャンルをつなげる「リング」となり得るのではないだろうかとは私は考えている。

この「リング」をして今後の美術教育の方向を探る一つの手掛りとなし、版画教育の在り方を探っていきたいとは私は思っている。

昭和54年7月30日。総会、大阪フォルムに於て。
第5号会報について会報係、山野辺氏より報告。

● 会報配布について —

○ 第5回会報配布は各大学5部とする。

○ 全国大学の内で版画を授業として行なっている大学へ会報を送付したい。

○ メンバー外の教育大学系（二部会）の名簿を入手し送付したい。

○ 美術手帖の別冊美術系大学・専門学校特集号を参考とし、名簿を作製したい。

○ 新聞社・美術館関係へ個人的に送付する。

会報6号7号の編集責任者として田村文雄氏が決まる。編集係に馬場章氏が加わるようになった。

事務局が女子美任期終了（2年間）につき、10月の総会付けで東京芸大へ移ることになった。事務局長一野田哲也氏）

大学版画展報告・カタログは日大が係となり会期中に全作品をスライドに撮る。オープニングスナップも同様。作品規定用紙返送の遅れが反省された。

4:30分より買上げ作品審査を行なう。昨年度は買上げ30名で50点・30名の内20名が2点買上げ、今回は例年通りだと賛助会員へのお礼の分が不足するため、その事を考慮し30名全員2点買上げ、上位10名を3点として審査した。18票以上4名3点買上げ、9票以上29名2点買上げ。1点につき5,000円。33点を版画保存会へ、37点を賛助会員へ。計70点。5:00よりオープニング及び買上げ作品の表彰が行なわれた。

昭和54年10月25日、定例連絡会議。東京芸大に於て、3:00より大学版画研究会主催による〈版画家における防災と健康管理〉の講演会が行なわれた。

講師、労働省産業安全研究所研究員・田畠泰幸氏、講演録音テープ及び大学版画展のスライドは事務局で保管しているので申込みがあれば貸出す。会報2号は事務局の保管は0。

賛助会員に配布する学生の作品に名前・年齢などを付けるようにした。

新しく、木村希八氏、岡部徳三氏を会員として迎える。

5:00より文化庁在外研究派遣員として渡欧する。相笠氏、小作氏の送行会が開かれた。

阿部 浩	千代田区外神田2-18-7 〒101 TEL 03-251-1474	武蔵野美大
相笠昌義	座間市立野台540 〒228 TEL 0462-54-0279	女子美大
相沢美則	杉並区久我山5-1-22 〒168 TEL 03-334-9521	文化学院
秋元幸成	滋賀県大津市大谷町24-14 〒520 TEL 0775-25-7927	滋賀大学
有地好登	所沢市上安松221-1 〒359 TEL 0429-44-6538	日 大
東谷武美	埼玉県上福岡市駒林436-3 〒356 TEL 0492-63-4779	一 般
福田年行	町田市三輪町1939 〒194-01 TEL 044-988-3339	岐 阜 大
今井治男	金沢市清川町4-10 エバーグリーン 犀川405号 〒920 TEL 0762-44-5603	金 沢 大
伊東正吾	静岡市丸子7-8-6 〒421-01	造 形 大
梅津 祐司	板橋区蓮沼7-7 ハスヌマアパルトマン 〒174 TEL 03-965-8918	芸 大
梅沢和雄	横浜市戸塚区平戸町1495 〒236 TEL 0458-22-1955	芸 大
小野克子	昭島市西武蔵野1388 〒196 TEL 0425-43-0891	女子美大
小作青史	世田谷区羽根木2-32-6 〒159 TEL 03-321-7221	多摩美大
小沼隆一郎	国分寺市本多1-10-21 札ノ丘荘102 〒185 TEL 0423-25-5144	武蔵野美大
小山松隆	千葉市花見川9-11-301 〒281 TEL 0472-58-3949	日 大
大本 靖	札幌市中央区円山西町491 〒064 TEL 011-611-0722	北海道教育大
太田 広	神奈川県横浜市旭区鶴ヶ峰1-72-2 〒236 TEL 045-371-2561	名古屋造短大
岡部昌生	札幌郡広島町字西の里379-211 〒061-11 TEL	札幌大谷女子短大
岡部徳三	神奈川県秦野市沢沢158 〒236 TEL 0463-88-0743	一 般
鎌谷伸一	横浜市金沢区平潟町31-1-814 〒236 TEL 045-781-1872	芸 大
河西万丈	山梨県大月市猿橋殿上483-1 〒409-06 TEL 05542-2-6174	都留文化大

▶ 会員名簿

河内 成幸 多摩市桜ヶ丘4-26-33
〒192-02 TEL 0423-71-4687 多摩美大

加藤 れい子 埼玉県狭山市入間川4-25-23 ハウス2008
〒350-13 TEL 0429-53-9174 女子美大

城所 祥 八王子市本町35-6
〒192 TEL 0426-22-5857 武蔵野美大

北岡 文雄 杉並区和泉2-27-8
〒168 TEL 03-328-3361 武蔵野美術学園

清塚 紀子 板橋区幸町13-5
〒173 TEL 03-955-2300 造形大

木村 秀樹 宇治市伊勢田町名木2-1-127
〒611 嵯峨短大

木村 希八 鎌倉市山崎1350-4
〒248 TEL 0467-45-2223 一般

小林 清子 渋谷区笹塚3-36-3 富士見荘21
〒151 TEL 03-374-3762 女子美大

小林 基輝 目黒区洗足2-25-17
〒152 TEL 03-781-9529 女子美大

糸野 憲治郎 愛知県愛知郡長久手町長湫下権田104-1 茜荘14号
〒480-11 TEL 05616-2-0978 名古屋造形短大

斎藤 寿一 川崎市幸区塚越3-375
〒210 TEL 044-522-2007 和光大

酒井 忠臣 福岡市東区松香台1-112
〒813 九州産業大学芸術学部

笹本 純 秋田県秋田市泉字嶽根166 三浦方
〒010 TEL 0188-33-5261 秋田大

坂田 和之 静岡県小笠郡菊川町半済1550
〒439 TEL 05373-5-3171 常葉短大

清水 昭八 小金井市梶野町4-16-27
〒184 TEL 0423-83-3733 武蔵野美大

島田 章三 愛知県愛知郡長久手町芸大公舎5号
〒410-01 TEL 05616-2-0885 愛知芸大

白木 俊之 長野市川中島町今里868-15
〒381-21 筑波大

園山 晴己 世田谷区駒沢2-59-5
〒154 一般

田村 文雄 小平市学園西町2-12-8
〒187 TEL 0423-43-7282 女子美大

武市 勝 山口市木町8-5
〒753 TEL 08392-8405 山口大

高橋 貴和 宮城県名取市名取ヶ丘5-1-1
〒981-12 宮城大

津地 威汎 徳島県徳島市吉野本町6-20-1 杉原マンション4号
〒770 徳島大

嵯野 寿蔵 愛媛県伊予市灘町4丁目
〒799-21 一般

中林 忠良 埼玉県上福岡市駒林437
〒356 TEL 0492-63-1970 芸大

野沢 博行 刈谷市井ヶ谷町広沢1 愛知教育大洲原寮17
〒448 TEL 0566-36-5895 愛知教育大美術教室

野田 哲也 小金井市本町3-14-14
〒184 TEL 0423-81-9371 芸大

長谷川 光輝 鎌倉市二階堂851
〒248 TEL 0467-25-1459 日大

馬場 章 浦和市道祖土381-4 長沢荘
〒336 TEL 0488-86-6307 一般

馬場 禰男 横浜市金沢区富岡町1197-186
〒236 TEL 045-772-1770 造形大

浜西 勝則 泰野市千村742-151-508
〒259-13 TEL 0463-87-3779 東海大

原 健 世田谷区野沢3-13-12
〒154 TEL 03-421-2980 造形・日大

平川 晋吾 宇都宮市峰町350
〒150 宇都宮大

広畑 正剛 世田谷区赤堤3-5-2
〒156 TEL 03-324-0532 玉川大

深沢 幸雄 千葉市鶴舞308
〒290-04 TEL 043-688-2034 多摩美大

福岡 奉彦 狭山市入間川4-25-23 ハウス2006
〒350-13 TEL 0429-53-7027 女子美大

吹田 文明 世田谷区砧3-33-4
〒157 TEL 03-417-7123 多摩美大

深草 廣平 佐賀市本庄町1
〒000 TEL 0952-24-5191 佐賀大

細田 政義 世田谷区祖師ヶ谷3-39-8
〒157 TEL 03-482-3052 女子美大

前川 直 岩手県盛岡市茶畑1-1-6 グリーンビレッジ
C-411 〒192-03 岩手大

舞原 克典 宇山市川田町1548-13
〒524 TEL 07758-3-0028 京都芸大

松川 幸寛 狛江市宕戸北4-1-1 土屋方
〒201 TEL 03-488-4967 多摩美大

松浦 昇 岐阜県大垣市上面二丁目提唐
〒503 大垣女子短大

▶ 会員名簿

- 松島 順子 大田区田園調布4-29-25
〒145 TEL 03-721-3062 一 般
- 丸山 浩司 練馬区桜台6-8-13
〒176 TEL 03-992-4020 芸 大
- 馬 淵 聖 神奈川県茅ヶ崎市芹沢2511
〒253 TEL 0467-51-1497 女子美短大
- 皆川 孝一 東久留米市神宝町1-8-8
〒180-03 日 大
- 宮田 克人 高知県高知市朝倉乙870
〒780 高 知 大
- 宮下登喜雄 府中市新町1-12
〒183 TEL 0423-61-5634 福岡教育大
- 村上 文生 京都市右京区太秦原面影町6-1
〒616 嵯峨短大
- 望月 詩子 西多摩郡五日市町伊奈810-4
〒190-01 TEL 0425-96-1215 一 般
- 山野辺義雄 町田市広袴443-10
〒194-10 TEL 0427-43-5117 東 海 大
- 山本文彦 茨城県新治郡桜村天久保 芸術専門学郡内
〒300-31 筑 波 大
- 横山 貞二 小平市上水本町1282 二恭荘2号棟D号
〒187 一 般
- 吉原 英雄 大阪府高槻市東五百住町3-21-32
〒569 TEL 0726-96-2286 京都芸大
- 吉田 穂高 三鷹市井ノ頭1-13-40
〒181 TEL 0422-44-3923 女子美大
- 吉本 弘 愛知県愛知郡日進町岩崎元井ヶ17-97
〒470-01 TEL 05617-2-3565 愛知芸大
- 横田 嘉雄 国分寺市本多4-17-6 ふじの荘6号
〒185 一 般
- 渡辺 達正 調布市上石原2-20-1 箕輪コーポ201号
〒182 TEL 0424-87-9476 多摩美大
- 渡辺 満 相模原市橋本5-25-5
〒229 多摩美大
- 渡辺 明信 文京区向ヶ丘1-2-5
〒113 TEL 03-813-9050 文化学院
- 廖 修平 杉並区荻窪1-1-19
〒167 TEL 03-391-4554 筑 波 大

▶ 賛助会員名簿

- 新 日 本 造 形 中野区新井1-42-8
〒165 TEL 03-389-1221
- サクラクレパス 千代田区神田三崎町3-1-16
〒101 TEL 03-263-4221
- ヌーベルセンター 千代田区神田三崎町3-1-16
クレパスビル内ヌーベル
〒101 TEL 03-262-4221
- 大阪フォルム画廊 中央区銀座6-3-2 ギャラリーセンタービル5階
〒104 TEL 03-571-0833
- 日本版画保存会 川崎市多摩区登戸3460 吉沢英哲方
〒214 TEL 044-911-9041
- 渡辺木版美術画舗 中央区銀座8-6-19
〒104 TEL 03-571-4684
- 山 田 商 会 中央区八重洲5-5
〒104 TEL 03-281-1667・8538
- レッドランタン版画舗 京都市東山区新門前通り仲之町236
〒605 TEL 075-561-6314
- 萩原市蔵商店 千代田区神田紺屋町43
〒101 TEL 03-256-3591
- 芸 大 画 翠 台東区上野公園12-8 東京芸術大学内
〒100 TEL 03-821-7056
- 光村図書出版 品川区上大崎2-19-9
〒141 TEL 03-493-2111
- ペ ン テ ル 千代田区東神田2-1-6
〒101 TEL 03-866-6161
- マルチアートセンター (乃村工芸) 港区芝浦4-6-4 乃村工芸社
〒108 TEL 03-455-1171
- ギャラリーカプセル 中央区銀座8-16-10B401 堀江強志
〒104 TEL 03-541-4676
- び け ん (本店) 世田谷区尾山台3-33-5
〒158 TEL 03-702-2118
- 梶 原 商 店 渋谷区上原2-33-8
〒151 TEL 03-466-6117
- 文 房 堂 千代田区神田神保町1-21
〒101 TEL 03-291-3441
- 日 動 画 廊 中央区銀座5-3-16
〒104 TEL 03-571-2553
- 画 荘 ヴィナス 新宿区西新宿1-15-13 胖ビル内
〒160 TEL 03-346-2728
- 版画ギャラリー 京都市左京区熊野神社東入ル
京都ハンディクラフト・センター 6F
〒606 TEL 075-761-0345

▶ 賛助会員名簿

画 箋 堂	京都市下京区河原町五条上ル 〒600 TEL 075-791-6131
ク ラ タ 商 店	大阪市鶴見区茨田諸口町1118 〒538 TEL 06-911-6561
アート・コア・ 版画芸術工房	京都市中京区寺町通り三条下ル 一筋目東入ル 〒604 TEL 075-223-1760
酒 井 民 雄	大垣市郭町3丁目 酒井書店 〒503
菊 田 商 店	文京区本駒込3-8-2 〒113 TEL 03-821-7131
横 田 嘉 雄	横浜市旭区金ガ谷781-13 〒241
武蔵野美術学園	武蔵野市吉祥寺東町3-3-7 〒180 TEL 0422-22-8171
シ ロ タ 画 廊	中央区銀座7-10-8 高橋ビル地下1階 〒104 TEL 03-572-7971~2
養 清 堂 画 廊	中央区銀座5-5-15 〒104 TEL 03-571-2471
阿部出版版画芸術	目黒区上目黒4-30-12 〒153

(順 不 同)

▶ 編集後記

大学版画研究会も発足して6年を経過し、大学に於ける版画教育の一つの核となりつつある意義は大きいと思います。

会報も今回で6号に至り、その内容も定着して来ましたが、今後なお一層の充実を計るべく先生方のご協力をお願い致します。

会報は過去一年二回の割合で発行して来ましたが、第6号は諸々編集等の都合で発行が遅れてしまいました事をお詫び致します。

大学版画研究会 会報 第6号 1980年6月
編集スタッフ一同

大学版画研究会 会報 第6号 1980年6月

編集スタッフ 田村文雄／山野辺義雄／小沼隆一郎

発 行 大学版画研究会

印 刷 有限会社 西 川

大学版画研究会

大学版画研究会

事務局 東京芸術大学版画研究室

〒110 東京都台東区上野公園内 TEL. 03 (828) 6111(代) 内線337番